



東京デザインウィーク2016グランプリ受賞作品「千重波」

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：1,300千円

東京デザインウィーク2016

目的・趣旨

6年目の参加である。学生が大学の看板を背負い、全国レベルのデザインに触れ、自分たちのデザインを発表し、他校やプロと交流を広める。全国の有名芸大・美大、約50校が参加し、それぞれの分野で講評会や採点が行われ、評価される。この経験は地方校の学生にとって大変有意義である。

日時・場所

平成28年10月26日から平成28年11月7日
東京 神宮外苑

体制

(実施代表者)	デザイン学部	デザイン学科	教授	中山定雄
(実施分担者)	デザイン学部	デザイン学科	教授	的場ひろし
	デザイン学部	デザイン学科	教授	和田和美
	デザイン学部	デザイン学科	教授	磯村克明
	デザイン学部	デザイン学科	教授	永山広樹
	デザイン学部	デザイン学科	准教授	服部守悦
	デザイン学部	デザイン学科	准教授	中野民雄

共催・後援等

内容

アジア最大規模のデザインのイベントである。30年以上の歴史があり、毎年10万人を超える来場者訪れ、世界中から注目されている。そのイベントにて国内外50校(300人以上)が参加する学校作品展が開催され作品を競い合う。東京アワードという賞を目指し、学生が会場で説明や呼び込みに汗を流す。



コンセプト会議



制作風景

結果・成果

学校作品賞で東京アワードグランプリを受賞した(総合1位)。ブースには計1万人以上が訪れ、大学の説明や作品の説明を学生が主体となって努力した。雑誌やメディアに取り上げられ大学の知名度を高めた。イベント終了後、2月に大学にて再現展示を行った。



『学生のコメント』 ～作品コンセプト～

Pairsを表現したインスタレーション。互いが両端からハンドルを回すことで波が生じて重なっていく。合わさった波は様々な表情を見せ、2人の関係を視覚化する。この作品の制作が始まったのは6月。27人全員が考えるペアーズとは何かを考えると始まり、1年生9人、2年生10人、3年生8人すべてのメンバーがフラットに同じ立場で想いを交わし、メンバーの想いを詰め込んで1つのペアーズを作り上げていった。7月から9月は毎日ミーティングを行い、具体的な案を出し合った。全員が考えたアイデアを細分化し、作品に必要な要素を明確にしていくため何個ものブレインストーミングを重ねた。夜中まで会議が長引くこともあり、意見の食い違いからメンバー内での衝突もあったが9月末には1つの案に絞ることができた。自分たちの理想の波を追求するため、波の動きを表現する構造や素材、動きの検証を行った。プラダン、布、ゴム、ストロー、スポンジなど、どの素材が波の表現に適しているか、100を超えるスタディから、ポリカーボネートのトタンに決まったのは10月3日。波をよりキレイに、より面白く表現するために細かな所まで、納得できるまで、手探りで作品を作り上げていった。大会当日になるまで自分たちの作品がどう評価されるか不安だった。しかし、開催期間中は多くの来場者に楽しんでもらい数ヶ月の苦労が報われた。この作品は国籍・老若男女問わず理解でき喜ばれた。